

## 第1回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成27年5月18日（月）19時～

会場：市役所3階大会議室1～3号

出席者 委員 34名（欠席4名）  
事務局 7名

### 1 委嘱状交付

出席者を代表して有竹英喜氏に市長が委嘱状を交付

### 2 市長あいさつ

足元の悪い中、またお仕事でお疲れの中、今日はこうして多くの皆さんにお集まりいただきまして、改めて御礼申し上げます。今日は最初のご挨拶ということで、ちょっとだけ時間をいただいご挨拶をさせていただきます。

皆様方においては従来の方に加えて、産業界から、そして行政関係団体から、そして金融機関から、労働機関から、教育機関から多くの皆さんにご参集いただいているわけだが、加えて今回は16歳から39歳までの中から無作為に抽出して募集したところ7名の方に新たに申し込んでいただいた。この会議が始まって以来の小さいお子さんがこの席についており非常に期待している。

さて、皆様方には大きな2つのことをお願いする。まち・ひと・しごと法案が今、国会を通過したが、その中で私たちが人口ビジョンと総合戦略、この2つを今年中に計画を立案しなければならない。その手伝いをしていただくことと、もう一つは平成28年度に光市総合計画が失効する。平成29年度からに向けて新たな一步を踏み出すために光市総合計画を策定するが、これも皆様方をお願いする。そのような重要な会議である。

地方創生について少しお話をさせていただきます。実は今日はこの話をするつもりではなかったが、新聞の切抜きを見ていたところ非常に驚いたものが出てきたので、少し紹介しながら私たちのまちづくりに対する思いの一端を皆様方にお話をしたい。

毎日新聞5月10日号に京都大学の教授で霊長類や猿の研究で非常に著名な山極寿一さんの記事が掲載されたが、この方が「不在を許す心」と題して猿社会のことについて書いてある。これが地方創生を進める私たちにとっても本当に大きな一つのポイントになるのではないかと考えている。

これは私たち人間も一緒であるが、猿も子どもが群れから離ればそれは死を意味する。そして思春期になると猿やゴリラなどの霊長類のオスは群れを離れて血液が交わらないようなパートナーを見つける。これからは問題であって、出て行った猿が元の群れに戻ろうとすると元の群れにいる猿は絶対に戻らせないそうだ。戻ろうとすると殺され

ることもある。だから猿というのは一旦出れば元の社会には戻れない、不在の間に新しい関係が出来て元の関係には戻れないと書かれている。ところが人間というのは出来たもので、こう書いてある。

猿や類人猿と比べると、人間は何と許容に満ちた社会を作ってきたことか。私たちは日々さまざまな集団を渡り歩いて暮らしているし、数十年の不在もまるでなかったように受け入れてもらうことができる。人間は不在の日々があっても親族や幼なじみに頼れるので復帰は困難ではない。人間には元の関係を今の関係に反映させる能力がある。ということで、元の社会に完全にすぐ戻ることができる。これが人間と猿の違いであろうと述べている。

人間というのは元の集団に「不在を許す心」がある。だから、帰ってきてても不在を許す。これは私たちが今から取り組む人口ビジョンに一番大きなヒントになるのではないかと思っている。Uターン、Jターン、Iターンは、不在を許す私たちの大らかな心により私たちのところに来るわけである。そういう心を私たち一人ひとりが持つ、つまりやさしさあふれる心を持っているところに人が集まる。こういう仕掛けを私たちがすると、やはり僅かでも人口増加につながるのではないかと思っている。もちろん私たちは様々な雇用、あるいはそういう様々な呼び込む仕掛けも作る。子どもに優しい、高齢者に優しい仕掛けも作るが、その根本はやはり私たちが「不在を許す心」、つまり「やさしさあふれる『わ』のまち ひかり」が、やはり、外から人口を持ってくると思っている。是非こういうところをお願いしたいし、これを具体的にすると、例えば「同窓会にやさしいまち ひかり」。同窓会を光でやっていただくと帰ってきた時に何らかの一つの恩恵を与える。それによってまちの輪が大きく広がるということにもつながるのではないかと思っている。

それからもう一つは私が常に申し上げている「光」という名前が私たちには一番の素晴らしい贈り物であると思っているので、この「光」という名前を使って発信ができないかということが、地方創生、あるいは総合計画の一つの大きな目玉ではないかと思っている。是非皆様方のどんな意見でもかまわないので、活発な意見をお伺いしながら、このまちが本当の意味で光り輝くまちとなるようお互いが尽力していきたい。今から3年間、皆様方とともにこのまちを下支えしていきたいと思うのでご協力のほどよろしくお願いして私の最初のお願いのご挨拶にさせていただきます。

### 3 自己紹介

各委員の自己紹介に続いて、事務局、株式会社ぎょうせいが自己紹介

### 4 会長・副会長選出

事務局案を求める声があったため、事務局案を示し、同意多数により決定

会長 梅本 貞則 氏（周防中保護区保護司会光支部支部長）

副会長 岩佐 光恵 氏（NPO 法人虹のかけ橋理事長）

## 5 会長あいさつ

この度、会長を務めることとなったが、市来前会長の後を受けてということで重責だと感じているが、皆様とともに勉強し、自らの職責を全うしたい。

本協議会は、地方創生のための人口ビジョン、総合戦略の策定や光市総合計画の策定など、非常に重要な案件の協議をすることとなる。

本日の資料にある光市の人口動向や将来人口推計を見ても大変厳しい状況にある。いかに光市を活性化させて、人口減少に歯止めをかけるか、しっかりと考えたい。

委員名簿を見ると、各界の有識者や、地域活動に取り組まれる方、子育て世代の方など幅広い分野、幅広い世代の方々に参加していただいている。皆様にはそれぞれの立場で忌憚のない意見をいただきたい。

最後になるが、このような役職は不慣れであり、迷惑をかけるかもしれないが、皆様のご支援、ご協力をいただきながらしっかりとこの会をまとめていきたい。

## 6 議題

### (1) 光市まちづくり市民協議会について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等  
→意見なし

### (2) (仮称) 光市人口ビジョン及び(仮称) 光市総合戦略について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

#### ● 委員

本会議の一番のところが人口ビジョンになると思う。そうすると資料2-2の2ページにある、「雇用の創出と産業振興」、「都会からの移住促進と定住支援」、3番目に「結婚・出産・子育ての希望実現」とある。このあたりに私は光市がおっぴ都市宣言ということを打ち出しているが、若い人がどこで子どもを産むかとなったときにインターネットで調べるわけである。そうすると「梅田」と「みちがみ」が出てくるらしい。出てきてじゃあどうするかとなるとその2つには中を見ると価格的に差がない、あとはネットの画像を見てどちらかに行かれることとなる。

そこで、両病院にお願いしてそこから引き出す線を、それによって結果的にはここで産まれて子育てが、やはり光で産めばどういうメリットがあるのかというところまで引っ張り出す、あるいは、もっと簡単なことを言えば小さな光市の情報、こういうところで今、雇用の問題が出ているとか、それと若い人に自分の娘と思って言うと、わずかなこと、5円でも10円の違いでもそっちに転んでしまう。だから私どもの年代みたいにあそこでなければいけない、ということは全くない。案外さりと金額の上下でいってしまう。そうすると、「みちがみ」とか「梅田」とよく協議をされて光市で生まれた子の何割かは光市で育てていただきたい。

自分も今調停委員をやっているが、調停の内容を見ると、その子の出生地が光だったら戸籍がどこであろうと光市となっている。光市で生まれましてという証明になる。そういうことから考えると、光市というものを認識させた上で、また、第一子が生まれたところで第二子、第三子も同じところということになるので、光に愛着を持たせるようなネット作りを両病院にお願いして光市と連携できるようにするのも一つの手ではないかと考えている。

● 委員

非常に難しい議論をされているが、要は若い方が働くところが不足しているということではないか。だったら雇用問題を最前面に打ち出していく必要がある。産業構造が変わっていく中で、雇用が創出できるのはどのような産業があるのか、将来雇用が生まれてくるのは何か、ということの研究されて、そういった企業をどうしたら誘致できるのかということ議論しないと、色々難しいことを言っても働く所がないと若い人は住んでくれないと思う。

● 委員

先ほどの意見に対して反論したいが、人口減に対する戦略について価格競争で行くが非価格競争でいくか、金ではなく魅力で勝負するのか。どちらでいくのか。

● 事務局

色々ご意見もいただきましたので、答えられる範囲でお答えさせていただきたい。

まず、おっばい都市宣言ということで、光市にある2つの産科病院との連携についてお話をいただいたが、おっしゃるように、おっばい都市宣言は光市の大きな売りの一つだと考えている。これは総合戦略や総合計画の中でも一定の位置づけ、考え方を取り入れる必要があると考えている。今、産婦人科の医者が少なくなる中で、「梅田」や「みちがみ」といった大きな病院が2つあるが、これを何らかの形で合理化していくというのは重要な視点であると考えている。

それから、若い人の働く場が減ってきているということについて話があったが、それは否定しようがない事実である。企業誘致について行政が手を出すのはなかなか難しいが、そのあたりでどこまで取り組みができるか、方向付けができるかは分からないが、雇用というのは地方創生の中で一つの大きな柱になっているので、このあたりで十分に踏まえて計画作りを進めてまいりたい。

価格競争か非価格競争かという意見について、これは色々な考え方があると思う。サービス競争でいくのか、魅力を増やしていくのかということだが、このプランを作る中では、市川市長からも話があったが、光の魅力を発信していくということで、「光」という名前にこだわった戦略を前に出していこうという思いである。これがすべてではないが、本戦略を作る中で魅力発信を一つの大きなポイントと考えていきたい。

● 委員

先ほどの出産の話聞いて思ったのが、私は子どもが5人ほしいと思っていたが3人でやめたのは下の子がいたりして環境が難しい部分があった。生みたいという気持

ちはつわりが楽で出産時期にすごく楽しい気持ちになったというのが大きいので、出産すること、妊娠することがどれだけ幸せで楽しいかと記憶させることがすごく大きいと思う。色々な理由で二度と出産したくないと思う人もいるが、妊娠・出産時にいかに幸せな気持ちにさせるかが第二子や第三子につながってくると思う。

雇用の部分で、若い人に「ここに就職は何もないでしょ」と言われた。もちろん個人の意見なので全員がそう思っているとは限らないが、19、20歳がいなくなるという形のグラフを見て思ったが、ここは雇用の部分が原因なのか、どういった理由で少ないのかがアンケート結果等でまとめられているのか聞きたい。

● 事務局

光市には母推さんとかがいらっしゃって、そのあたりではきめ細かなサービスをしていただいております。このように地域の皆さんの力を借りてこれからも充実させていきたい。母推さんがいるというのは一つの大きな安心であるし、すごくいいところだと思う。人口ピラミッドについて19、20歳が少ない理由は、就職・進学で市外に出て行くというのがほぼ間違いない理由である。これは光市だけでなく多くの地方都市で同じような状況が見られる。ただ、そのあたりの就職、進学の割合については現時点では把握できていない。これについては県が高校生を対象にアンケートを行っているので、そういった情報をカバーできていると考えている。そういうところも市として把握できるよう今後勉強していきたい。

● 委員

今日のまちづくり協議会で、38名の委員が集まってこういうスタイルでずっと3年間続けるのか。何を求めていくのか、やり方がよくわからない。意見が反映されないのではないかと。このやり方では何も進まないのではないかと。これから3年間どういう議論の進め方をすれば効率よく意見を出せるのか。そのへんがわからない。どのように考えるか。

● 委員

やはり、大人数でやるよりもグループ化して分散会形式にしたほうが効率的だと思う。

● 委員

テーマによって年齢層を変えるとか、もっと若い方の意見が出しやすいように討議していくやり方を事務局には考えてほしい。

● 委員

根本的に私どもは言っぱなしでいいと思う。問題は事務局がまとめて必要なところだけ助言すればよい。

● 事務局

基本的に事務局の考えとして、総合戦略、人口ビジョンにつきましては、これに限られた時間の中で策定する必要があるため、事務局の方から一定の案を示していきたい。それについてご意見をいただくという形で進めていきたい。

総合計画についても今後協議を始めていくが、今後策定方針等を取りまとめさせていただくのでそのあたりの進め方については、部会を設けることもできるので改めて説明させていただきたい。

● 事務局

今、説明があったように総合戦略に関しては時間的なリミット、10月というのがあるので、皆さんの方から何かまとめてもらうというよりは、ご意見をいただいたものを我々のほうでまとめて素案を示すというような流れでいかせていただきたい。

先ほどもあったが、各界、各層色々なところから来られた方がおられるので、それぞれの得意な分野、関心のある分野について色々な意見をいただき、それをまとめる手法を取らせていただきたい。

総合計画についてはもっと範囲が広がる。これについては大人数で意見を言うのではなく、3つ4つの部会に分けて議論していただきたい。こちらの方はまだ時間的な余裕も若干あるのでそのように運用させていただきたい。

5 その他

○ 事務局から今後の予定について連絡

- ・ 7月中旬をめどに（仮称）光市人口ビジョン中間案を策定
- ・ 7月下旬に次回の会議を開催（人口ビジョン中間案について説明）
- ・ 8月中旬をめどに（仮称）光市総合戦略中間案を策定
- ・ 光市総合計画についても8月頃から協議を開始
- ・ 会議については本日のように夜間の開催を軸に調整する
- ・ 意見・提言カードの提出をお願い